

北大経済学部 同窓会報

Hokkaido University
Faculty of Economics

第30号



発行者

北海道大学経済学部同窓会

発行日 2014年8月30日

電話 & FAX (011)706-4113

email dosokai@econ.hokudai.ac.jp

経済学部卒業生数 9,631名

ごあいさつ

北大経済学部
同窓会会長

上野 昌美
(昭和47年卒業)



北大経済学部同窓会員の皆様に、同窓会報第30号をお届けします。

北大は2004年4月に国立大学法人化してから今年で10年になりました。国立大学の環境が、ここ数年間で劇的に変化していますが、北大も環境変化に対応し、時代のニーズに対応すべく着々と準備を進めています。2016年からは、国立大学法人化してから第三期目の中期計画期間に入るため、新しい中期計画期間のための計画立案を開始しました。本年4月には、2026年の大学創基150年に向けた「北海道大学創基150年に向けた近未来戦略」が公表されました。研究、教育、地域との連携、組織改革、国際化の各分野をカバーする長期戦略です。同窓生の一人として、北大が21世紀に相応しい大学に進化してゆくことを大いに期待したいと思います。

さて、こういう環境下で、大学は同窓会、

同窓生との連携を強めてきました。まず国立大学法人に移行して大学への運営交付金が毎年削減されていくなかで、大学運営の財源のひとつとして同窓生からの寄付金をつくるため、フロンティア基金が設立されました。また、2012年からはホームカミングデーが始まり、同窓生が北大のキャンパスを訪れる機会が増えました。経済学部をはじめとして各学部も記念行事を行って、全学セレモニーにあわせて、同窓生に情報を発信しています。2013年から始まった新渡戸カレッジでは、同窓生から選ばれた「メンター」がカレッジ生の精神的な成長を見守り、指導しています。同窓生が大学に対し、資金、教育、大学行事などに積極的にかかわるようになったのです。このような大学と同窓生、同窓会との関係強化は今後もますます深まってゆくでしょう。

ホームカミングデーが始まって以降、経済学部同窓会はその開催に合わせて総会、懇親会を開いていますが、2012年は法学部、2013年は文学部、教育学部と合同して記念行事を行いました。そして本年2014年は経済学部、法学部、文学部、教育学部の四学部が合同して記念事業を開催する予定です。文系四学部同窓会が合同懇親会となります。経済学部同窓会の皆様もホームカミングデー

の四学部合同の記念事業と合同懇親会にご参加くださいますようお願い申し上げます。

北大は、こういう一連の同窓会、同窓生との関係強化に取り組む一方で、地域貢献として各種の公開講座を開講しています。経済学部でも毎年公開講座を開講し、同窓生や市民の方々に経済学部の研究成果を公開しています。大学が地域へ開かれていく流れの延長線上では、最近のインターネット環境を前提として、直接社会に講義内容を発信する趨勢が注目に値します。北大でもオープンコースウェアというウェブ・サイトを開設し、教育内容を公開しています。こういう授業を受講した人々も広い意味で北大の同窓生といえるかもしれません。とはいえ、本同窓会の変わらない目的のひとつが経済学部同窓生の親睦と情報提供です。本号でも、吉見宏経済学部研究科長から経済学部の近況についてのご寄稿をいただき、同窓生の方々からも多数の近況報告が寄せられました。同窓生はいくつになっても懐かしいものです。本号にご寄稿くださいました皆様並びに会報作成にご協力くださいました皆様に心から感謝して、ごあいさつといたします。



求められる、独立性と改革の推進

大学院経済学研究科長・
経済学部長

吉見 宏

本年4月から、研究科長に再任され、このあと2年間引き続き研究科長および学部長を務めることになりました。任期の2年間、同窓会会員の皆様にはどうぞよろしくお願いいたします。

さて、この2年間は国立大学にとっては第2期中期目標・中期計画期間の最後の2年間に重なります。平成16年に国立大学は法人化し、以後は6年間で中期目標期間として計画を立ててその目標実現を図ることが求められるようになりました。いわば6年ごとに、国立大学は中期の「決算」を迎えることになるわけであり、第2期の「決算」が平成27年度となるわけです。

法人化により、「国立大学」は国の機関としての位置づけを離れました。組織としての独立性を求められる中で、国からの交付金である「運営費交付金」は毎年計画的に減じられ、より効率的な運営を求められています。当然のことながら、経済学研究科・経済学部が大学本部から交付される予算も毎年着実に減っているのが現状です。

一方で、文部科学省は国立大学に一層の変革を求めており、そのような努力をした大学には特段の予算的配慮をすることを表明しています。その具体的現れの第一は、「ミッションの再定義」です。これは、もともとは民主党政権時に策定構想が始まったもので、国立大学が、各研究科・学部単位でここまで社会のどのような求めに応じて役割を果たしてきたのか、そしてこれからどのような方向を目指すのか、いわば一旦立ち止まってこれまでの歩みを客観的に見つめ、「棚卸し」してみようというものでした。自民党政権に移ってからこの施策は継続しましたが、その意味づけは多少変化し、何が他の大学と異なった強みなのか、それを今後どう活かして組織変革するのかを、各国立大学の各研究科・学部が表明するよう求められることになりました。

経済学分野のミッションの再定義は、法学を除く社会科学系で

まとめられることになり、本学分も本年4月に文部科学省から公表されております。

第二は、昨年11月に文部科学省が公表した、「国立大学改革プラン」です。これは表題の通り、国立大学に一層の改革を求めるためのロードマップの役割を持つものであり、平成28年度から始まる第3期中期目標・計画期間に何をするのか、それを示唆するものでもあります。とはいえ、国立大学改革プランは、平成26年度と27年度を改革加速期間と位置づけ、第3期中期目標・計画の前倒しを求めています。

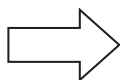
このような中で、経済学研究科・経済学部も、すでに今年度から第3期中期目標・計画の策定に着手しなければなりませんし、その中では意義ある改革をどのように構想するかが求められています。しかもそれはスピード感を持ってやらなければなりません。また北大本部は、総合大学の強みを活かした文系・理系融合型の教育組織改革を進める方針を持っており、その方向性も鑑みる必要があります。

経済学部は大学院重点化を経て、平成15年には専門職大学院である会計専門職大学院を開設してまいりました。会計専門職大学院は、おかげさまで本年で開設10周年を迎えたことになります。また平成24年度には地域経済・経営ネットワーク研究センターを研究科内に設け、北海道地域に根ざし、貢献する研究活動を行っております。

このように、経済学研究科・経済学部はこれまでも幾度か組織的な改編を含む改革を経験して参りました。そしていままた、時代が求める新たな姿を模索する時が来ています。同窓生の皆様におかれましては、経済学研究科・経済学部の今後の活動にご関心をお持ちいただき、一層のご支援をいただければ幸いに存じます。

北大生協は 北大での勉学・教育・研究活動の充実に貢献し、大学生活を豊かにする活動を進めています

6/23 ミニショップオープン！
文系共用講義棟 2F
月～金 10:00～13:00



北海道大学生協同組合 理事長 柿澤 宏昭
札幌市北区北8条西7丁目 TEL. 011-746-6218

大学生協北海道事業連合 理事長 吉見 宏
札幌市北区北8条西7丁目 TEL. 011-726-9148

昨今の経済学部



平本 健太

(昭和62年卒業)

1982年に文1系に入
学し翌1983年の秋に経
済学部に移行してから、
早いもので30年以上の年

月が流れました。1991年3月に大学院経済学
研究科経営学専攻博士課程を中退し、最初に助
手として勤務したのが、琵琶湖のほとりに位置
し、研究室の窓から「国宝・彦根城」を見上げ
ることができる滋賀大学経済学部でした。滋賀
大に6年間奉職した後、1997年4月に北大
経済学部に着任して、今年で18年目になります。

この間、2000年の大学院重点化にともな
い、所属部局が経済学部から大学院経済学研究
科に変わりました。また、2007年には学校教育
法の改正によって肩書きが助教授から准教授
に「横滑り」するなどのちょっとした変化もあ
りました。滋賀大時代も含めると、助手、講師、
助教授、准教授、教授と、大学教員として経験
できる肩書きは、助教以外のすべてを経験した
ことになります。

さて、わたしが学生だった時分と較べて経済
学部が一番変わった点、それは女子学生の方が
増えたことです。今回、この原稿の執筆に際し
て経済学部学術専門職の堤さんと塚田さんに
データをご提供いただきました。それによると、
わたしが経済学部に移行した1983年は、男子
学生315名に対して女子学生は31名しかおら
ず、女子の割合は9%でした。わたしが北大
に赴任した1997年を見ると、女子学生の割合
はほぼ20%です。それが近年では、多少の増減
はあるものの経済学部生の約30%が女性です。

もう1つ、興味深いデータがあります。
1995年に入学した経済学部生の出身を見ると、
道内55%に対して道外45%という比率で
した。その後、少しずつ道内出身者の割合が高
まっていき、2006年には道内出身者の割合が
70%を超えたのです。同じ年の北大全体の道
内出身者と道外出身者はほぼ同数でしたので、
これは必ずしも健全な傾向ではありません。こ
のまま「ローカル化」が定着してしまうとの懸
念もありました。しかし、今年の経済学部入学
者を見ると道内出身者52%、道外出身者48%
と、道外出身の学生の割合が増加していること
が分かります。北大は、全国から学生を集める
ことができる数少ない国立大学のひとつだと言
われています。経済学部にも、道内だけではなく
日本全国のいろいろな場所から、優秀で個性
的な人材が集まって欲しいものです。

ところで、北大経済学部といえば、やはり
ゼミの存在をはずすことはできないでしょう。

2013年版の『ゼミダス』によると、経済系
16、経営系17の計33ゼミが開講されていま
す。『ゼミダス』とは、2001年から学生有志
によって作られるようになった、ゼミ選びのた
めのガイドブックです。各ゼミの先生紹介やメ
ンバー構成、ゼミの内容やタイムテーブルなど
が記載されています。ゼミごとの特色や個性が
表れており、今では2年生がゼミを選ぶ時に
欠かせないものとなっています。

ゼミ選考は、毎年10月から11月にかけて行
われます。選考される2年生にとっては、希
望のゼミに入れるかどうか気が気ではない時期
でしょうし、現役ゼミ生たちにとっても、活
きの良い学生が自分の所属するゼミに来てくれ
るかどうか心配です。ゼミ選考の時期にな
ると、各ゼミがポスターを作成し、それを経済学
部や軍艦講堂などに掲示するのが10数年前か
らの習わしになりました。上述のゼミダス同様、
ゼミ生募集のポスターにもそれぞれのゼミのカ
ラーが表れていて、眺めているだけでも楽しい
ものです。たまたまこの時期に出張で北大を訪
れていた他大学の先生は、「ゼミ生募集でポス
ターがこんなにたくさん貼ってある光景は初め
てだ」と驚いていました。

このゼミ生募集のポスターには、ときに非常
に秀逸なものがあります。わたしがいまでも思
い出し笑いをしてしまうのが、5、6年前の某
ゼミのポスターです。下手ウマなおばちゃんの
絵が描かれていて、吹き出し内には殴り書きで
「お風呂にする？ ○○(担当教員の名字)に
する？」と書いてあるのです。

担当教員の許可を得て作成されたものだとし
たら、先生の心の広さに感じ入りますし、先生
の許可を得ずに貼り出したのだとしたら、それ
はそれで凄まじいことです。現物を示さずにあ
のポスターの凄さを伝えることは不可能なの
ですが、あれをはじめ見た時の衝撃はとても言
葉になりませんでした。もし拙文をお読みの某
ゼミOB・OGのみなさんと、原図を持っている
方がいらっしゃいましたら、ぜひ平本までお
送りください。家宝にします。

ゼミ募集のポスターだけではなく、ゼミ見
学やらゼミ説明会やら、ゼミ選考はある種のお
祭り騒ぎのごとく、賑やかに行われます。しか
し、3年生に進級してひとたびゼミに入れば、
原則として2年間おなじゼミに所属して、じっ
くりと専門分野の学問に身を浸します。

2年間のゼミの成果は、最終的には卒業論
文として結実します。たしか2001年度だった
と記憶していますが、経済学部の「卒業論文褒
賞制度」がスタートしました。これは、優秀な
卒業論文を「特選論文」として表彰するもので
す。毎年、卒業論文の中から特に優れたもの
を選出し、「特選論文：経済学部長賞」(1編)、「特
選論文：同窓会長賞」(1編)、「特選論文：佳作」

(8編程度)を授けています。受賞論文の中に
は、修士号に値するほどの出来映えなのではな
いか、と思えるような優れた論文もあって、心
強い思いです。制度の発足以来、同窓会からは、
継続的に「同窓会長賞」をご提供いただいてお
ります。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

わたしのゼミは、かつては<軍隊ゼミ>など
と陰口をたたかれていました。担当教員が鬼軍
曹で訓練時間が非常に長く(=ゼミを遅い時刻
までやっている)、その軍曹自ら率先垂範して
行動し(=酒を飲み)、そうした行動や厳しい
規律を訓練兵(=ゼミ生)に強要するからとい
うのが、<軍隊ゼミ>というありがたくない呼
称の由来だそうです。「厳しい」「キツイ」とい
う噂ばかりがひとり歩きしているように感じる
のですが、ゼミ生たちの多くは、「入隊期間」
をそれなりに楽しんでくれていたようです。もっ
とも、かつての鬼軍曹も今ではだいぶ衰えて、
最盛期のハードさは薄れつつあります。ゼミの
OB・OGたちになると寂しいことらしいので
すが、これもまた時の流れでしょう。

わたしのゼミのOB・OGたちははままりが
良く、卒業後も折に触れては集まったり、旅行
したりなど、旧交を温めていると聞いていま
す。わたしが出張で東京や名古屋に出向く際な
ども、一声かけると何人ものOB・OGたちが
集まってくれます。いまでは、Facebookなど
のSNSを通じて、卒業生の動向がなんとなく
分かるようになりましたが、やはりバーチャル
ではなくてリアルに会って、酒杯を酌み交わさ
ないと真の人間関係は維持されないと感じてい
ます。

今年の4月に卒業生の結婚式に出席した際、
彼女の同僚としてトヨタ自動車に勤務する経済
学部OB・OGの皆さまとお会いすることがで
きました。披露宴の2次会は、さながら北大
経済学部のプチ同窓会といった様相でした。非
常に楽しい時間を過ごすことができ、同窓の仲
間っていいものだなあと改めて感じた次第で
す。これからの時代、同窓会と大学との繋がり
はますます重要になっていくものと思われま
す。経済学部同窓会の皆さまにおかれましては、
これまで以上に北大経済学部を可愛がっていただ
けますよう心よりお願い申し上げます。このま
とまりのない文章を締めくくらせていただきた
いと思います。



卒業生を送る会

平成26年3月25日、午前中に行われた卒業式に引き続き「百年記念館」で経済学部・研究科の「卒業生を送る会・同窓会入会式」が開催されました。



この席上では毎年優秀な卒業論文に対し「同窓会長賞」が金一封と共に授与されます。今回は樋渡ゼミの小山光晶さんが見事受賞されました。

送る会では、上野同窓会長より社会や大学院等に巣立つ200余名の卒業生に対し力強い饒の言葉が贈られました。また、この会には例年、同窓会より15万円を寄贈し、卒業生や多くの学部関係者より感謝の言葉をいただいております。



受賞の喜びと感謝の思い



小山 光晶さん

この度は平成26年度北海道大学経済学部特選論文賞を頂きまして、誠にありがとうございます。このような名誉ある賞を頂けたことを本当に誇りに感じています。本論文の執筆にあたり、担当教官である樋渡雅人先生には、論文の体裁から内容に至るまで数多くの指導を賜りました。また、ともに切磋琢磨した同ゼミ生や、支えてくれた両親など、多くの皆様にお世話になりました。

この場をお借りして感謝の意を表します。

私の卒業論文は「途上国における上下水道整備と子供の健康～親の衛生行動の変化に着目した実証分析」という表題です。この論文を執筆した背景には、私がゼミの一環として大学3年の夏に行ったウズベキスタンでの経験がありました。途上国では特に砂漠地帯では水を手に入れることもままならず、手に入ったとしてもその多くは衛生的とは言えない水でした。こうした水の問題を間近で見て、それが途上国の子供の健康にどう影響を与えるか考え始めたのがこの論文のスタート地点でした。

衛生的な水の不足は途上国において共通の問題となっており、近年ではJICAなどの組織により、多くの水道プロジェクトがなされていますが、ほとんどは実施地域を選択的に選んでおり、全ての地域に水道が整備されたとは言えません。また、上下水道整備が途上国の子供の健康にどのような影響を与えるかという論文も増えましたが、多くは上下水道と子供の健康状態という二変数の因果関係のみを扱った短絡的なインパクト評価研究に終始しており、上下水道整備が生活慣習にもたし得る様々な影響や、子供の健康に影響を与えるまでのメカニズムの検証は不十分であると思われました。

そこで私が着目したのは、上下水道が整備されることで親の衛生行動がどう変化するか、そのメカニズムを分析することでした。ここでいう親の衛生行動とは、親が子供に対して健康が向上するような行動を行うことを指します。例えば水の飲用前の煮沸やワクチンの接種などが挙げられます。これらの行動に上下水道が整備される以前と整備された後の間で変化があったかどうか検証し、上下水道が整備された際の間接的な子供の健康への影響を分析しようと思いました。もちろん本論文において選択した衛生行動はどれも子供の健康に対して正の効果を与えるものでした。したがって上下水道整備によって親が衛生行動をしなくなると子供の健康は悪化し、より行動するようになると子供の健康には好影響を及ぼすことになります。

また、各衛生行動は上下水道整備に対して補完的あるいは代替的な行動であるかの区別も行いました。補完的な行動、つまり水道と組み合わせることでその健康への効果がより増加するような行動であるならば、上下水道が整備されることで子供の健康に対する衛生行動効果が上昇します。しかしもしそれが代替的な行動、つまり水道と組み合わせることでその健康への効果が減少する行動であるならばそれらは下降することになります。

データの分析においては2006年にウガンダで実施された一次家計調査データを用いました。ウガンダはその年代ではアフリカ諸国の中でも所得レベルや、上下水道の普及率が最も低い国のうちの一つでした。データの分析に際しては、ウガンダ内における所得レベルや教育レベルなどによる影響を受けないようにするため、各資産や所得水準などを反映した経済水準指標によって各家計を分類し、分析を行うことにしました。

以上の点に注意し、実証分析を行ったところ、多くの家庭は上下水道が整備されると衛生行動を増加させていることがわかりました。つまり、上下水道整備は子供の健康へ正の効果を与えていることになります。しかし、一方で水の飲用前の煮沸行動を減少させていました。この行動は親の衛生行動の中で最も水と補完的な行動になるものでした。つまり、衛生的な水を手に入れたとしても、煮沸行動を行わなければそれは悪質な水を飲んでいるのと同じことを指していることになります。逆に上下水道が整備されていなかったとしても、飲用前の煮沸行動をすることで、下痢やそれに関連する病気を抑えることができるという研究結果も出ていました。以上から示唆されるのは、上下水道の整備が行われると子供の健康にかえって悪影響を与えてしまう可能性があるということです。

ではなぜこのような現象が発生しているのでしょうか。ここでは二点ほど理由が考えられました。一つ目の理由として、多くの途上国の土壌には特に悪質な例だとヒ素が検出される場合もあり、例えば上下水道が整備されたとしても煮沸行動が省けない場合があるということです。二つ目の理由はこの土壌が汚染されているという事実情報を途上国の多くの家庭は知らないということです。多くの家庭は上下水道が整備される＝安全な水の確保と考え、飲用前の煮沸という面倒な行動をしなくなってしまうのです。

この卒業論文を執筆し、物事を論理的、そして多面的に見る力が身に付きました。様々な視点から物事を見ることで問題を解決する力はこれから社会人として働く上で必要なものです。私は現在民間企業で就職し、社会人として新たな一歩を踏み出しています。こうした北大経済学部で学んだ経験を活かし、社会に貢献しようと思います。

最後になりますが、我々の道筋をつけてくださったすべての北大経済学部の同窓生の皆様に、卒業生を代表いたしまして感謝申し上げます。ありがとうございました。

アベノミクス?! 今年の就職は絶好調

平成25年度の経済学部・大学院卒業生の就職率は96.2%と好調な結果となりました。進学者等を除く就職希望者211名のうち203名（女性は59名）がこの春社会に向けて学窓を後にしました。

今年の特徴は、道内企業の比率が下がったことに加え、景気回復を反映してか、金融・保険が49と公務員の30人を抜いてトップとなったほか、情報通信16、電気・通信機械13、小売り10、輸送機械8人等の業種が続きました。

社会人一年生となった彼らの活躍を心から願わずにはおれません。彼らと一緒にいる機会がありましたら、是非暖かいお声掛けを宜しくお願い致します。

就職先一覧

【14人】札幌市

【5人】北洋銀行

【4人】村田製作所、キヤノン、三井住友信託銀行

【3人】トヨタ自動車、セイコーマート、北海道銀行、北海道労働金庫、日本生命、北海道大学、北海道庁

【2人】太平電業、富士通、北海道電力、北海道放送、NTT東日本、北陸銀行、農林中金、三菱UFJ信託銀行、野村証券、JCB、りそなグループ、住友生命、新日本監査法人、札幌国税局

【1人】日鉄鉱業、日揮、鉄建建設、清水建設、五洋建設、戸田建設、伊藤組土建、六花亭製菓、JT、宝酒造、味の素、キリンビール、サントリー食品インターナショナル、東レ、グラクソスミスクライン、花王、三菱ガス化学、第一三共、三菱重工、LIXIL、日本軽金属、JFE、SUMCO、日立、NEC、ソニー、日立システムズ、AGREX、三菱電機、富士フィルム、セイコーエプソン、住友電工、川崎重工、スタンレー電気、日立造船、住友電装、デンソー、小松ウオール工業、丸紅、モロ

オ、ムトウ、ラクーン、鈴与、ローソン、ニトリ、イオン北海道、Jフロンティア、アップルジャパン、スタイラ、三井住友銀行、商工中金、中国農業銀行、あおぞら銀行、日本政策投資銀行、岡崎信金、みずほフィナンシャルグループ、三菱UFJモルガンスタンレー証券、オリエントコーポレーション、東京海上日動、アメリカンファミリー生命、第一生命、明治安田生命、エージェント、日本通運、日本郵便、JR北海道、JAL、沖縄テレビ放送、NECネクサソリューションズ、楽天、富士通FIP、フューチャースコープ、KDDI、イズ、ニッセイ情報テクノロジー、北海道ガス、関西電力、北陸電力、東北電力、中部電力、桂和商事、スターツコーポレーション、三井不動産レジデンシャル、都市再生機構、ホクレン、愛知県信連、半導体エネルギー研究所、北海道信用保証協会、電通、アクセンチュア、吉田経営センター、あづさ監査法人、トーマツ、ペイロール、マクロミル、ハマノホテルズ、リラク、医法翔嶺館、テアトルアカデミー、個別指導塾スタンダード、社会保険診療報酬支払基金、名内不動産鑑定事務所、三菱総合研究所、インテリジェンス、北海道労働局、東北財務局、中部経済産業局、北海道財務局、北海道警察、北広島市、岩見沢市、函館市、江別市、豊島区、羽後町

● 恩師の異動ほか ●

発令	職名	氏名	異動内容	備考
H25.9.1	教授	坂川 裕司	昇任	研究科准教授から
H26.3.31	助教	肥前 洋一	辞職	高知工科大学教授へ
同	助教	戸村 肇	辞職	東京大学講師へ
同	助教	楠木 敦	辞職	北星学園大学講師へ
同	助教	金盛 直茂	満了	大東文化大学助教へ
同	助手	山本 崇史	満了	地域経済経営ネットワーク研へ
同	教授	湯山 英子	満了	同

平成25年度

経済学部同窓会、懇親会

平成25年9月28日(土)の第二回北大ホームカミングデー当日午後3時過ぎから「軍艦講堂」にて講演会と同窓会総会を、そのあと「クラーク会館」にて懇親会を行いました。

講演会は文学部OBの読売新聞論説委員で人気コラム「編集手帳」を永年執筆されている竹内政明さんが「コミュニケーションの泣き笑い」と題して熱弁を奮われました。集まった卒業生や家族も次々とする興味あるテーマに聴きほれ、十分満足された様子でした。

同窓会総会では決算承認と活動報告さらに質疑応答と順調に終え、また最後に、恒例となりました吉見学部長の興味深いお話もいただきました。

そのあと夕暮れの中、3学部合同の懇親会がクラーク会館食堂に場所を移

して行われ、学部を超えた懐かしいメンバーの輪があちこちに見えるなど、和気藹藹、楽しい宴が時間いっぱいまで続きました。最後は「都ぞ弥生」の大合唱で締めくくりました。

今年も9月27日(土)に行います。初めてのご参加の方、御家族同伴の方を含め、心からお待ちしております！



北大では、卒業生の皆様にご利用いただけるWebサービス「アットフロンティア」をスタートしました。フリーメールの手軽さで北大ドメインのメールが使えて、他の卒業生との連絡機能も搭載。校歌や寮歌の演奏データがダウンロード可能なほか、北大発のイベントやビジネス情報も入手できます。生涯使えるメールアドレスで、他の卒業生や北大と、生涯つづくコミュニケーションを。

@Frontier 新規登録申請方法

① Webサイトにアクセス

二次元バーコードを携帯電話で読み取るか、携帯電話・PCブラウザで次のURLを入力してアクセスし「新規登録申請」をクリックしてください。
<http://www.frontier.hokudai.ac.jp/>



①

② 氏名や卒業学部を入力

登録申請フォームが表示されるので、必要事項を入力して申請手続きを行ってください。



②

③ アカウント送付

北大事務局より、卒業事実確認を行います（この作業にはお時間をいただく場合があります）。確認完了後、アカウント情報（IDおよびパスワード）をEメールまたは郵便で送付します（通知方法は申請時の連絡先にEメール・ご住所のどちらを指定したかによって異なります）。

@Frontierに関するお問い合わせは、北海道大学総務企画部広報課
(info@frontier.hokudai.ac.jp/011-706-2012) までお気軽にお寄せください。



学生支援の「北海道大学カード」

北大人の証明

北海道大学連合同窓会が発行する「北大カード」は、北大人としての証です。
(北大同窓生、在学生父母及び教職員限定)

特典

附属図書館の入館証
植物園の無料入園証
北大カード協力店の割引・優待
北大出版会書籍割引
希望者へ結婚式への祝電サービス
(総長・連合同窓会長連名による)
カード会社からの各種サービス など
(詳細は申込書等をご覧ください。)

カードの利用額に応じて提携手数料がカード会社から還元されます。これを「学生支援資金」として奨学金などの学生支援に活用します。

一般カードは年会費永久無料！！
《ゴールドカードを除く》

お申込について

1. 専用の申込書を下記あてご請求ください。専用申込書を送付いたします。
2. 専用申込書に所定事項を記入・捺印いただき、ご投函ください。
3. カード会社の審査を経て、お申込から約1ヶ月後にカード会社から配達記録郵便にてご自宅までお送りいたします。

申込書ご請求先

北海道大学連合同窓会事務局（北海道大学総務企画部広報課）
〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
電話：011-706-2012
E-mail: kouhou2@jimuhokudai.ac.jp

※UICカードのホームページからも、申込書を請求できます。
(ホームページ下部の「資料請求」からお進み下さい。)
(<http://www2.uccard.co.jp/join/college/hokudai.html>)

雨中の決戦、経済学部3連勝飾る、優勝は宮永雅己さん



今年で34回目を迎えた伝統の一戦、「経済学部・法学部同窓会対抗ゴルフコンペ」が6月28日札幌エルムカントリークラブで行われました。経済学部は初参加者を含め13名が出場、生憎の雨の中にもかかわらず日頃鍛えた腕前を遺憾なく発揮しました。

わが経済学部は今年も法学部を下して三連勝、個人でも宮永雅己さん（S49年卒）が初優勝するなど、法学部に顔色なからしめた一日でした。

来年は今年少数だった法学部も動員をかけてもっと大きな大会になると思われます。初参加者、初心者、心から歓迎致します。

来年のスケジュールが決まり次第、ホームページに載せますが、連絡ご希望の方は事務局にメール又は電話しておいて下さい。

賞品は多数用意され、農家直送の「ゆめぴりか」2～6キロが参加者全員に、また多数設定した各賞にはワインなどが当たり、最後まで和気藹藹、終始笑いの絶えないパーティーでした。



札幌のお部屋探しならノースステイ

North Stay

North Stay は、札幌でウィークリー・マンスリーマンションや家具家電付の賃貸マンションを運営しております。ご旅行や出張など、お客様のあらゆるシーンにあわせて、快適な住居空間をご提供させていただきます。

〈ノースステイホームページ〉
www.north-stay.com/

札幌市内トップクラスの情報量

札幌オフィス検索

札幌オフィス検索は、札幌の賃貸事務所・オフィスなどへ移転をお考えのお客様に最新の物件情報をご紹介します。ご紹介物件数・更新頻度ともに札幌エリアではトップクラスです。仲介手数料半額による格安なコストでの移転をサポートします。

〈札幌オフィス検索ホームページ〉
<http://of-sapporo.jp/>



ファイバーゲートグループ
株式会社 賃貸生活
代表取締役 猪又 将哲

こちらのフリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください

【ノースステイ受付窓口】

フリーダイヤル
☎ 0120-277-271

【札幌オフィス検索窓口】

フリーダイヤル
☎ 0120-989-865

〒060-0061 北海道札幌市中央区南1条西7丁目10-3 第28桂和ビル2階
TEL 011-330-0077 / FAX 011-222-7093



□ファイバーゲートのホームページ
<http://www.fibergate.co.jp>

人物紹介



音楽としての口笛

口笛奏者 柴田 晶子 (平成17年卒業・旧姓駒野)

私は現在、口笛奏者として活動しています。「口笛奏者」という言葉を初めて目にする方も多いと思いますが、「口笛」は歌とも楽器とも違う、素晴らしい可能性を秘めた音楽表現の一つと私は考えています。

私が口笛音楽に出会ったのは、北大経済学部を卒業して都内の民間企業に就職し、二年が経った頃のことです。新聞に掲載されていた「国際口笛コンクール」の記事を偶然読んだことがきっかけです。そういえば自分も幼い頃から口笛が得意だったけれど、まさか口笛にコンクールがあるのかと驚き、すぐに記事にあった口笛奏者の情報を調べてコンサートを聴きに行きました。そこで聴いた音色は、これまで私が知っていた口笛とは全く異なる、「音楽」としての口笛でした。驚きと感動で全身に鳥肌がたったことを良く覚えています。私はすっかり口笛音楽に魅了され、週末は口笛教室に通い、毎日猛練習を重ねて、2008年には念願の国際口笛コンクールへの初出場を果たしました。その頃から徐々に演奏依頼を頂くようになり、しばらくは会社員と演奏家の両立を続けていたのですが、悩んだ末、2009年に勤めていた会社を退社し、本格的に口笛奏者としての活動をスタートしました。そして、三度目の挑戦となる2010年国際口笛コンクール・中国大会で初優勝、2012年のアメリカ大会で二度目の優勝をすることができました。

演奏活動を始めて数年は、口笛音楽の知名度の低さと自分自身の音楽的知識の不足から、音楽を仕事にすることの難しさを実感する厳しい日々でしたが、多くの素晴らしいミュージシャンとの出会いや、その方々と実際にステージを経験する過程で、毎回様々なことを学びながら、現在は少しずつ全国各地で演奏させて頂ける機会が増えてきました。各地で北大ご出身の方とお会いすることも多く、その度に皆様が心から応援して下さい同窓生の温かさを感じます。特に今年は、大先輩方により「恵迪寮歌を口笛で演奏する」というユニークなプロジェクトも立ち上がり、2014年9月18日(木)には札幌時計台ホールで口笛コンサート『口笛で奏でる恵迪寮歌』の開催も決定致しました。学生時代には想像することすらできなかった現在ですが、私は「口笛」によって紡がれていく沢山のご縁に心から感謝しておりますし、何よりも人生が楽しく豊かになったように感じています。

私は、演奏をする際にはいつも「音楽としての口笛」をお客様に

感じて頂けるように心がけています。口笛の音色の美しさを表現するとき、あるイメージを心に描きます。それは、広い草原と遠くに見える山、上空から吹く少し涼しい風、というイメージです。学生時代にサイクリングクラブに所属し、北海道の大自然の中を自転車で駆け抜けた経験が、演奏にとっても活かされていることを感じます。また、経済学部では佐々木隆生教授のゼミに所属し、私たち学生にとっては難解な経済書を読み解く作業を繰り返した経験も、口笛ではとても無理だろうと思われるようなクラシックの曲に取り組む時などは、とても活かされていることを感じます。一見難解な楽譜も、理解できるレベルまで細かく区切って、ひとつひとつ丁寧に組み立てていくと、最終的にそれらがつながって全体が完成する、という過程は、その当時の経験にとっても似ていると感じます。

北大で過ごした4年間は、どの分野においても決して優秀な成績を残したわけではないですが、私なりに学業にも真剣に取り組み、また一生心に残るような素晴らしい大自然の景色に数多く出会うことができた、とても充実した4年間でした。卒業後も時折北海道を訪れて、その度にここに生活していた過去の自分自身に励まされるように感じます。私の人生において、北大へ進学したことはとても素晴らしい選択だったと思います。現在も、自分のプロフィールに必ず「北海道大学経済学部出身」と書いています。大好きな北海道大学出身であることが私の誇りですし、これからも北大出身の口笛奏者として、全国や海外に口笛音楽の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。



『～吹き抜ける風のように～ 口笛で奏でる恵迪寮歌』

2014年9月18日(木) 18:30～

札幌時計台ホール(札幌市中央区北1条西2丁目)

入場料 1,000円

■主催: 口笛コンサート実行委員会 ■後援: 恵迪寮同窓会北海道支部

■お問合せ先: こんたけkontake851@yahoo.co.jp

011-851-0221(FAX) 080-1876-6516(TEL)



同窓会サポート企業

SALAT 株式会社 サラト

■本社

兵庫県姫路市北条宮の町172
〒670-0948
Tel.079-284-1380

■東京支社

東京都台東区台東4-18-7 シモジンビル5F
〒110-0016
Tel.03-3832-6381<http://www.salat.co.jp>

北大の近況

北海道大学ホームカミングデー 2013の開催

昨年9月28日、ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。

会場となったクラーク会館講堂が多くの同窓生や関係者で埋まるなか、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「永遠の幸」「都ぞ弥生」の演奏で式典は幕を開けました。

司会は経済学部卒業生である北海道放送（HBC）の船越ゆかりさんが務め、最初に、山口佳三総長が「進化する北海道大学」と題して本学の近況を報告し、「同窓生の皆様には本学の強力な応援団になっていただきたい」とのメッセージを伝えました。次に、数士文夫北海道大学連合同窓会会長が歓迎の挨拶として、連合同窓会の役割を紹介し、クラーク博士の残した"Be gentleman""Be ambitious"の話を交えホームカミングデーの意義について話されました。

続いて、鳥インフルエンザ研究で世界的に著名な喜田 宏人獣共通感染症リサーチセンター統括が「どうする？ 鳥インフルエンザとパンデミックインフルエンザ」と題して講演を行い、わかりやすく、時に笑いを交えながら研究内容を説明しました。

そして、歓迎のステージでは、本年度のYOSAKOIソーラン祭りで準大賞に輝いた北海道大学「緑」が若さ溢れる演舞を披露し、会場を盛り上げました。



講演する喜田先生



北大の近況を報告する山口総長



歓迎の挨拶を述べる数士会長

最後は、恵迪寮同窓会有志による「都ぞ弥生」の斉唱です。斉唱時には役員等もステージに上がり、客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィナーレを迎えました。

今回の行事では同窓生を温かく迎えようと、受付や会場誘導、照明等で学生がボランティアとして活躍してくれました。元気のいい学生と接し、同窓生の皆様には本学の"今"を体感したことを思います。

「北海道大学進学相談会 in 東京・大阪・名古屋」を開催

本学単独主催の学部受験生向け説明会「北海道大学進学相談会」を、10月26日名古屋、27日大阪、11月2日東京で開催しました。

本相談会は平成19年度に東京で初開催して以降、今年度で7度目の開催となります。

各会場では山口佳三総長をはじめ、各学部やアドミッションセンターの教職員、在学生ら、約100名が高校生や保護者への説明・相談に当たりました。

当日は、総長挨拶を皮切りに、本学概要や総合入試についての説明等を行い、それと併せて、全12学部のブースや、学生支援相談ブースなどで個別相談対応を行いました。

来場者は名古屋327名、大阪612名、東京911名、計1,850名のべり、特に大阪会場では昨年度を大きく上回る来場者数となりました。

来場者からは、「受験勉強へのモチベーションがあがった」、「どのブースでも知りたい情報を丁寧に説明してくれた」等の感想が寄せられ、盛況のうちに幕を閉じました。



多くの来場者

平成25年度学位記授与式の挙行

平成25年度学士学位記授与式を3月25日に、本学第1体育館において執り行いました。

学位記授与式は、来賓、役員、学部長等の列席の下、交響楽団による「エルムの鐘」の演奏の後開始され、水産学部を除く11学部の卒業生2,276名を代表し、各学部の総代へ学部長から学士学位記が授与されました。

山口佳三総長は卒業生への告辞の中で、「時代に流されないしっかりと指針を持って人生を歩み、その際、2つのことを是非、心に留め置いてほしい」ことを述べました。

1つ目は、「生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけること」であり、「自ら学ぶことの大切さを体得した人は、これからの未来を

自力で切り拓いていける」こと、「学び続けることは、絶えざる自己革新を求めることでもあり、フロンティア精神をもってこれからの人生を切り拓いてほしい」ことを述べました。2つ目は、「これからの人生を、常に社会と向き合って歩む」ことであり、「これからは、自分を育ててくれた社会にどう関われるのか、どんな貢献ができるのかを問い続けてほしい」ことを述べました。

最後に、「夢と勇気と大志をもって、新しい船出をされることを祈念しております」とのはなむけの言葉が贈られました。続いて、北海道大学連合同窓会副会長 横山 清氏から卒業生へ向けて、「生涯学び続ける姿勢は大切であり、夢とは人間の限界を超えるような努力をしてこそ叶えられる。どんなことがあってもめげないこと、あきらめないでほしい」との言葉が贈られ、その後、出席者全員による「都ぞ弥生」の斉唱で式は終了しました。



学位記を受ける総代

経済学部東京同窓会のご報告

昨年は経済学部東京同窓会の行事がありませんでした（今年は法学部と合同でホテルにて講演会、懇親会を予定しています）ので、今首都圏にいる北大OB、OGによって最も大きな話題を提供した「東京ジンパ2014」をご紹介します。

ジンパとはジンギスカンパーティーの略。昨年試みにこれを企画したところ300人を超える大盛況となり、これに気を良くして二回目の今年は大々的にクチコミ等で参加者を集めました。5月24日（土）、江戸川妙典河川敷バーベキュー場は正午から濛々たる煙が立ち込め、500人以上の同窓生とその家族らが好天の下、懐かしいジンギスカンに舌鼓を打ちました。数土文夫連合同窓会



会長（当時）や山口佳三北大総長なども多忙の中、ご参加いただきました。

肉は昔ながらの冷凍ラムの丸太肉、タレは当然「ベル」、そしてビールは全てサッポロビールとこだわりのラインナップ。そしてスープカレーで有名なピカンティからも社長自らがサービスをしていただくなど大いに盛り上げていただきました。約3時間、全て食べ、飲み尽した楽しい集まりも無事終了、最後は高らかに「都ぞ弥生」を五月の青空に響き渡らせて散会しました。

来年も間違いなく行われますので、是非ご参加されてはいかがでしょうか。

連絡先：北大東京同窓会

TEL：03-3211-9211 FAX：03-3211-9288

東京都千代田区丸の内1丁目7-12 サビアタワー10階

北大経済学部東京同窓会

事務局 藤井孝先 03-3362-9755

メールアドレス iijuft@frontier.hokudai.ac.jp



北海道大学認定

同じ札幌の地で歴史を育む「札幌唯一の酒蔵 千蔵鶴」が、創業140余年の伝統の技で丹念に醸し上げました。原料米は北海道が誇る酒造好適米「吟風」を使用した北海道産100%のこだわりの逸品です。



◀斜めにも置くことができます。

180ml詰
822円(税込)

梅酒
雪の天使たち



500ml詰
2,400円(税込)

特別純米
ポプラ並木



500ml詰
2,900円(税込)

大吟醸
ポプラ並木

札幌市北区北8条西7丁目

北大グッズ受注センター @エルムプロジェクト 担当/近澤

TEL011-708-0388 FAX011-708-0389 <http://www.hokudai.seikyou.ne.jp>

お問合せ先

札幌市北区北8条西4丁目(北大構内)

北大ショップ 北大交流プラザ エルムの森ショップ

TEL011-708-7540

売上金の一部は、北海道大学の運営費に充てられます。

●お酒は20歳になってから。●妊娠中・授乳期、また自動車・機械等の運転前、運転中の飲酒は避けて下さい。●お酒はおいしく適量を。●表示価格はメーカー希望小売価格(税込)です。

日本清酒株式会社 札幌市中央区南3条東5丁目2番地 ☎011-221-7106 <http://www.nipponseishu.co.jp>

北大経済学部 同窓生の近況

今年も多彩な顔ぶれです。卒年こそまちまちですが、
各々の立場、経験、懐想に裏打ちされた7名のOB達の
原稿をぜひご賞味下さい。

成長戦略には賛成なれど… ～「清貧の思想」ではダメなのか？～



川 端 裕
(平成3年卒業)

多くの企業でコンサルティングを行っていますが、最近の「人事」の現場では多くの動き、それも地殻変動的な動きが同時並行して起きており頭を悩ます日々が続いています。ざっと例をあげるだけでもワーキングマザー、定年再雇用者、外国人、帰属意識の低い若手に対する包括的対応（いわゆるダイバーシティ問題）や、ほぼ間違いなく来るであろうホワイトカラーエグゼンプションやジョブ型（責任限定型）正社員の法制化に対する準備に、それらが現実のものとなった際の給与体系、人事評価制度等の抜本的見直しなど、書いている先から頭が熱くなってくる課題が山積しています。

上記以外にも、いわゆるハラスメント問題も依然として残っています。厚生労働省資料によるとセクハラは減少に向かいはじめたのに対して、パワハラ（いじめ・嫌がらせ）の方は増加傾向にあり、いわゆるブラック企業やパワハラ上司が増えている可能性が読み取れます。ブラック企業は論外としても、実際、パワハラ上司が存在する企業は相変わらず多いように思います。それにしても、なぜパワハラ上司はなくならないのでしょうか？その理由は上司のものととの性格傾向をはじめ複数考えられますが、端的に言えば彼らが業績、成績を上げてくるからでしょう。また、目標達成できない優しい（甘い？）課長よりも、問題はあってものきちんと目標達成する課長の方が、部長にとってはありがたいのは言うまでもありません。それゆえ部長も黙認し、ひいてはそれが会社全体の「風土」になっていくのです。

ところが、実のところ、パワハラ上司が本当の意味で会社に貢献できるのは短い期間に限った場合だけです。その上司や人事がパワハラ上司の存在を黙認、看過し、長期間放置すると、そのうち問題が表面化します。部下のメンタル不調や法令違反行為の引き金になることが多々あり、最悪の場合、過労死や自殺もあります。そして、これらが

実際に発生した場合には、いずれも取り返しがつかないほどの損害を会社に与えます。

先日、近所の江戸川の堤防を散歩中、ふとこんなことが頭に浮かびました。「パワハラ上司問題か・・・。はて、何かに似ていないか？ ん、原発！？」最初はパワハラ上司と原発を同一視するなんて自分でも飛躍しすぎていると思いました。でも、「3.11」によって原発の潜在的問題が顕在化した時、それまでのハイパフォーマンスは全て帳消しとなり、長期の視点で見ると利得よりも損失の方が遥かに大きいということが明白になりました。そのことを考えると、この二つには共通点があるように思えてなりません。

「ひとたびコトが起きた時には取り返しがつかない」ことを知っているにもかかわらず、少なからぬ企業は心の底ではパワハラ行為をさほど問題視せず、政府は政府で一刻も早く原発を再稼働させようとしています。喉元過ぎればなんとやら。きっと、企業や国の成長のためにはそれらがやはり欠かせないということなのでしょう。

気が遠くなるほど巨額な国の借金のことや今後の社会保障制度の維持といったことを考えると、確かに企業や国全体の成長を前提とせざるを得ないというのはわかります。ただ、賞味期限が来たと言って食べられる食品を平気で廃棄し、飲み会では大量の料理が手付かずで残され、地デジ対応と言ってはまだまだ使えるTVを半ば強制的に破棄させられたりすることに異を唱えないように見える今の日本の「空気」には大きな疑問を感じます。経済成長のためには大量消費がプラスに働くのは当然理解できます。でも、日本のような「贅沢三昧」状態を成長の起点に置くことを前提とするのであれば、それは原発も必要になるでしょう。

食べ物に感謝し、ものを大切にし、足るを知り、周囲に遠慮し、自然と調和し、慎み深く生き、そして潔く老いる。これらを是とすることは成長戦略に相いれないということなのかもしれません。しかし、現在の日本人が失ってしまったように見えるこうした概念は、今では世界で好意的に受け入れられています。MOTTAINAIがずっと有名ですが、他にも、例えばアメリカには『ダウンシフター』と命名されたライフスタイルがあります。これは「より人間らしい生活がしたい。そのためには収入が減っても構わない。収入が減るのであれば消費は当然減らす。」という生き方で、まだまだ萌芽的かつ局所的ではありますが、日本でも最近、30代～40代を中心に逆輸入的に増えつつあります。

こうしたスタイルは、一見、活力不足で覇気がないように思えるのではないのでしょうか。白状すると、私は最初にこれを聞いた際、働き盛りの時にそんな生き方をするなんて「負け犬の遠吠え」にしか聞こえませんでした。でも、今は考えが変わりました。車はダウンシフトするとスピードは出にくくなる反面パワーや加速度は増すものです。失うものがあれば、得るものもある。諦めることで手に入るものもある。「安倍内閣の成長戦略とダウンシフト、どう

にか折り合いをつけられないか？」そんなばんやりしたことを思う今日この頃です。

「大学生生活満足度1位」を堪能 ～わがよき友よ、菅原ゼミの仲間たち～



遠藤 昭一
(昭和49年卒業)

大学の四年間（私の場合は四年プラス一年、ちなみに菅原ゼミ卒業生にはこのプラス何年という卒業生が多数いる）というのは最も自由でいろんなことができた時期だと思う。お読みになった方もいると思うが、ちょっと前の新聞記事だが自分の卒業した大学の学生時代の満足度についてどう思うかという調査がのっていたことがある。そしてその記事によると北海道大学が一番にランクされていた。確かに、私だけでなく多くの北大卒業生の方々が、満足度という意味で、同じ思いをされているのではないだろうか。今、北大でさえ、どうやって魅力ある大学として学生を集めるかという、いわゆる顧客満足度が試されているようだが、振り返って良きあの頃のこと書いてみよう。

私が大学に入学した年は大学紛争の真ただ中で、東大は入試が中止となり北大の入学式も式場が学生に占拠されてしまい、教室で待っているうちに中止となって、当時の堀内学長が各教室を廻ってクラスごと挨拶をしてくれた。ついでに言うと、卒業式もなく、事務室の窓口へ卒業証書を貰いに行った。しかし騒然とはしていても今以上にノンビリとして自由な学生生活だった。教養課程では、まともに授業を受けた覚えがない。

学部移行もそうした中で、経済学部へと進んだが、当時も（たぶん現在も）「ヒマ経」と言われていて、あまりまともに勉強する学生は少なかったように思う。私は公認会計士が志望だったので、会計学の菅原秀人先生のゼミを選んだが、当時の国立大の経済学部は時代を反映して「マル経」が主流であった。菅原先生も批判的な立場での会計学を教えておられたが、今、公認会計士という職業をしていると、多くの制度的な問題の中で、これでいいのだろうか、という意識を常に持つことは大事なことだと思う。

ここで、ちょっと古い話だけどゼミ自慢。1986年10月13日号の日経ビジネスに「ゼミナール訪問」という連載記事で北海道大学菅原ゼミが載った。「うちのゼミは学内でも忙しいゼミと評判です…本ゼミの他、週2回の自主ゼミが行われている…学内の図書館利用率は菅原ゼミの学生がナンバー・ワンだという…ゼミの卒業生は110名で楡蔭会（こかげかい）というOB会を組織している。その内、15～

16名が、公認会計士や税理士になっているが、そのための勉強をゼミでは一切していないという」

当時教養課程から学部移行するための準備期間が2年生の後半にあり、この時、菅原ゼミ移行予定者に対して3・4年生が指導する移行ゼミがあった。菅原ゼミには菅原ゼミ三訓と呼ばれる言い伝えがある。「先輩を敬い、同輩にそしられず、後輩に愛のムチ」である。移行ゼミではまさに愛のムチ(?)でしごかれて、移行ゼミには結構多くの参加者がいたが全員が本ゼミに移行するわけではなかった。

また正確には何と言っていたのか覚えていないが（そして今現在も行われているのかどうか分らないが）ブロックゼミナール、インターゼミナール、略してプロゼミ、インゼミという全国の経済学部のゼミが参加する論文発表会のような行事があって、夏は東北、北海道地区のプロゼミ、秋は全国でのインゼミというように行われていた。菅原ゼミも毎年このプロゼミ、インゼミには必ず参加していて、このための自主ゼミがあった。そんなこんなでしょっちゅう自主ゼミをやっていた記憶がある。

プロゼミやインゼミの参加論文作成のため自主ゼミを行ったが、毎年、参加するためのゼミ旅行が楽しみであった。夏のプロゼミが仙台であって、ゼミ生一同で仙台の七夕を楽しんだり、先方の東北学院大学会計学のゼミ生と交流会を楽しんだり、インゼミは、秋の京都を楽しんだりといったことが良い思い出となっている。菅原ゼミがこうした時には、旅費のカンパを先輩にお願いしたり、先輩の会社の社員寮に泊めてもらったり、逆に、後輩が来たときには、自分たちの下宿に泊めてもらったりもしている。中には、学生の発表会なのに、社会人の卒業生も顔を出して「今、内の若いモンはこう言ったがそれは…」と、突然、不規則発言をして、私たち後輩を慌てさせる先輩もいたりした。

また、菅原ゼミのOB会楡蔭会は今でも何かとあれば集まっている。同期ばかりではなく、先輩、後輩の繋がりが深く、一昨年(2017)の10月の北大ホーム・カミングデーの時にも、本州からも多くのOBの方々が集まり、そして、楡蔭会が行われた。

実際に、こうした繋がりは学生の頃の、会計士試験の受験勉強においても、また、就職した後の仕事の上での色々な繋がりにおいても、多くの敬うべき先輩には何かとお世話になっており今も続いている。

一方、菅原ゼミ生はゼミばかりやっているわけでもなく、図書館にいるというのは、マージャンのメンツが足りない時、図書館にいけば誰かがいるとゼミ生以外からもお声がかかり、誘い出したり、出されたり。また、自主ゼミの後には、経済学部の前の芝生でジンギスカンパーティーをやって、芝生を焦がしてしまい「また、菅原ゼミか!」と、守衛さんに言われてしまったり、(もっとも四十年前以上前のこのころは他のゼミはまだあまりジンパなどしていません)プロゼミの論文作成が終わった後は、ゼミ生皆で積丹でキャンプをしたりと、騒いだものである。

一時期、学内での飲酒やジンギスカンパーティーが自粛

されてちょっと寂しかった。北大にはクラーク先生のもう一つの言葉「ビー・ジェントルマン」があることを思い起こし、自分たちの自主性の元で、大学生活満足度一番の北大の大学生活をおくってほしいものである。

北海道を元気にします ～始まりは、母が歌う「都ぞ弥生」でした～



小野 雄吾
(昭和63年卒業)

同窓会報に寄稿をさせていただく機会をいただきありがとうございます。今回は北海道と僕の関わりについて少し書かせていただきます。

僕は京都出身で、京都府立八幡高校を卒業後、駿台予備校京都校を経て、84年に北大に入学しました。

経済学部では佐々木隆生先生のゼミでお世話になっていました。お恥ずかしながら在学中はあまり熱心な学生ではなく、特に部活もサークル活動もせず、当時まだあったローカル線などを使って道内を旅したり、札幌では18条近辺で飲んだくれたりという生活を送っていました。

卒業後は三井不動産に入り、経理、ビル管理、不動産コンサル、用地取得、IR（投資家向け広報）担当を経て、現在は東京で主に新規プロジェクトの事業企画を行なっています。

余談ですが、佐々木隆生ゼミは横のつながりが強く、いまでも先生が東京にいらっしゃる時などにOB／OGで集まる機会があるのですが、ゼミOBで今回の寄稿を紹介していただいた九州大学経済学部教授の清水一史さんのご指示のもと、東京でのゼミ会の永久幹事を仰せつかっています。

さて、京都出身の僕と北大の関わりは、「都ぞ弥生」から始まりました。

山登り好きだった母親は、僕が小さい頃から山で歌った歌をよく口ずさんでいて、母は北大とは関係がないのに歌う歌の中になぜか「都ぞ弥生」があり、僕の幼心の中にメロディーと共に北大という存在が植えつけられました。

多くの道外出身の方が同じ質問を受けていると思いますが、僕も京都出身で北大卒と言った時に必ずと言っていいほど聞かれる「どうして京都から北海道に行ったのですか？」への答えの一つは、母親が歌っていた「都ぞ弥生」かもしれません。

卒業後は北海道を離れましたが、これまでの仕事でも北海道との関わりがいくつかありました。

用地取得を担当していた時は、在学中にチラシ配りのバ

イトはしたけれど、行く機会はなかったススキノの大型キャバレー「札幌エンペラー」の跡地（現在はメルキュールホテル札幌）の買収に携わったり、最近では、苫小牧での太陽光発電所プロジェクトや、変わったところでは道内に点在する5000haの社有林の有効活用に関わったりと、東京で仕事をしながらも、北海道を素材とする仕事に関わる機会がありました。

しかし、これらの仕事は自分から積極的に追いかけた訳ではなく、何となく日常の仕事の広がりの中で生まれてきたという感じでした。

一方で、最近の仕事の中で北海道の可能性を感じる機会が増えてきました。

例えば、1年前まで担当していたIR（投資家向け広報）という仕事で、年に数回ほど香港やシンガポールにいる機関投資家を訪問していた時には、現地の旅行代理店や書店に置いてある日本の観光のコンテンツとして、北海道の存在感が年々高まって行くのを目にしていました。

また最近では、海外の不動産投資家と接する機会も多くあるのですが、ニセコでのスキーから始まった彼らの北海道への関心が、今では北海道全体に広がり、年間を通じた様々なアクティビティにまで広がっていることを肌で感じています。

このように観光では、僕が在学していた25年以上前は国内に知られるだけだった北海道は、今ではグローバルな観光地の一つになっています。

また、本格的な動きにはなっていませんが、観光だけではなく、事業拠点としての可能性も出始めています。

温暖化や首都圏で高まる首都直下型地震のリスクを背景に、札幌には十分な都市インフラや札幌市だけでも190万人を擁する人口、また鉄道で35分以内に24時間運用可能な国際空港である新千歳空港があるなど、事業機能の分散ニーズを受け入れられる素地があります。

最近の事例では、それらの利点に着目した外資系の生命保険会社が、事業継続性の観点から今年の8月に竣工する札幌三井JPビルに本社機能を設立する動きも見られます。

ただ、ニセコの魅力を海外に広めたのは豪州人であり、東京にある本社機能を札幌に移したのは外資系企業であったように、北海道の可能性に着目して流れを生み出したのは海外の人たちでした。

海外の人たちが北海道の可能性に気づき新しい動きを作る事例を見ながら、この歳になって、学生時代を札幌で過ごし、道内を旅して巡り、北海道と関わりを持っている自分が、もっと積極的に北海道の役に立つ仕事ができないのかを考え始めるようになりました。

北海道に対する関心が高まりつつある中、僕と同じように北海道に関わりを持つ北大卒業生やそこから広がるネットワークを生かせば、北海道をもっと元気にする知恵が生まれ、それが具体化できるのではないのでしょうか。

社会人生活も残り時間の方が少なくなった今、これからは自ら意識して北海道を素材とした事業機会を追いかけて行きたいと考えています。

また、東京で疲れた気持ちとカラダを癒してくれるのも

北海道です。いまでも北大の構内や北20条西8丁目の下宿あたり、また何回も訪れた襟裳岬に行くと気持ちが落ち着きます。

小さい時に耳にした「都ぞ弥生」から始まった北海道との関わりは、仕事でもプライベートでもまだ続きそうです。

経済学部OBとの絆に感謝と期待と ～「ふきのとう子ども図書館」予定通り、新築移転開館～

高倉 嗣昌

(昭和36年卒業)



4年前の同窓会報に書きましたが、「公益財団法人ふきのとう文庫」は図書館サービスに接する機会の少ない心身の不自由な子どもたちに目を向けて様々な活動を続けています。「ふきのとう子ども図書館」は、活動開始して40年、専用の図書館を開館して30年になるのを機に、およそ3年計画で札幌市西区平和の地から札幌市中央区桑園の地への移転事業に取り組んでまいりました。それに要する高額な移転資金を賄うために、広く募金することとし、本同窓会誌を通じて、北大経済学部の同窓生の方々にも、寄付をお願いしておりました。

当ふきのとう文庫の運営には、北大経済学部12期の高倉嗣昌と、13期の阿久津良二の2人が以前からそれぞれ代表理事、業務執行理事の任に当たってまいりましたところに、当同窓会に募金をお願いした根拠があります。

今から32年前、丁度当子ども図書館が専用の施設を建てた年になりますが、「札幌市平和の地に一見に価する私立子ども図書館ができた」との情報を得、高倉が図書館と関係が深い科目を大学で担当していたことから、その学生を連れて見学に行ったのがきっかけで今日があります。

10年前に高倉が当時の理事長に任ぜられ、大学ゼミの一期後輩の阿久津良二を引っ張り込んで常務理事になってもらい、以後公益財団法人の認可を得て、今日までやってまいりました。

お陰様で移転事業は順調に進み、去る2月23日に新築移転開館に漕ぎ着けることができました。大きな壁だった移転資金も、多くの方々からのご支援をたまわりまして、何とか乗り切りました。

特に北大同窓生に関しましては直接的応募だけではなく、

いろいろな機関団体個人を紹介して下さる等、広く応援していただいて北大のパワーを感じました。経済学部に限らず、文科系の学部や理系医系の学部出身の方々からも広くご支援たまわりましたが何といたっても中心的に応援して下さったのは、経済学部出身の方々と、これが絆なのだろうと意を強く致しました。

今年2月下旬に開館しましたが、現在のところ来館者、登録者、本類の貸出冊数等は、心身に障がいをもつ人々も含めて札幌市西区平和に居た頃より飛躍的に増えております。

さらに教育文化福祉に関心を寄せる人々や機関団体とのかわりも増え大きな広がりが見られます。

まず、図書サービスはもとより布の本や拡大写本の制作にあたってくれるボランティア希望者が増え又後を断たず、残念なことに目下お断りしている状況にあります。

次に、今までお付き合いをいただいて来た機関や団体からより関係を深めたいとか、今まで関わりがなかった機関や団体から新たに連携をとりたいとの申し出が次々あることです。

三番目に、テレビ・ラジオ・新聞等に報道される機会が大変増えたことです。

四番目に併設されている多目的室を集会、展示、演奏等に使用してほしいとの要望が少なからず寄せられていることです。

これら自体も、当文庫に対する何よりの応援と申せましょう。

逆に来館者が増えることで、ランニングコストが大きく嵩んで来てしまい、それに対する対応が迫られることがあります。移転によって内部留保金を搾りだしてしまった今、これが大変大きな課題となつてまいりました。

幸い当文庫への経済的面にも思いを入れて下さる方々も増えて来ておりますが、今後とも一層のご支援をお願い申し上げます。移転に際してご支援をたまわりました上でのお願いで恐縮ですが、どうかご理解をたまわりたく存じます。

もちろんお金を下さいというだけではダメで、社会に広く認めていただける活動が伴ってこそお願いできることで、このことを肝に命じ活動していく所存です。

北大ブランドへの誇り ～諸先輩との交流で感じるもの～



常松 尚史

(平成20年卒業)

北大経済学部の同窓会に於いて何を書くべきか。依頼を受けたのもご縁と、北大と自分について整理する良い機会

であるとつらつらと書く事にした。

1984年、生を授かりました。3人兄弟の3番目。祖父は北海道大学農学部教授であった。北大・・・地方の帝大であり、親戚にも卒業生が多く、大学=北大、というようなイメージを持ち育った。

そして高校3年生の受験、現実の成績から入ることは困難な状況であったが、北大を受験し、日頃の不勉強が祟り不合格、猛省し、再起を図り浪人生活をおくった。その成果が実り合格。晴れて北大の学生となれたのである。学生時代は公認会計士試験を志し主に、会計、財務、税務などのお金にまつわる勉強をし、四年次の10月に会計士試験に合格し大手監査法人「あずさ監査法人」に新卒で入所した。先輩、同期、そして後輩も会計試験を通じ苦学を共にした仲間として15名程度が同窓の友人で未だに親しい関係である。卒業と同時に上京生活がスタートしたのが2008年の春。会計監査の仕事は繁忙期を除けば比較的業務は早く終わる。その頃から北大の卒業生が集まる北大東京同窓会なるものに参加するようになった。理事にして頂き、理事会へ出ると30名程の理事には一部上場の現役社長や中小企業の経営者、技術者そして医者などバラエティに富んだメンバーが揃っており、色々な話を缶ビールで気軽に楽しむ。非常に風通しがよい組織だ。確かに仕事で社内の評価に影響があるわけではないし、座学ではないが、経営者と直接話をし学び感じることは非常に多い。懐の大きさ、数字に対する姿勢、コスト管理、現場思考、後輩に耳を傾ける姿勢、そして謙虚な姿勢などサラリーマンのお手本となり参考になるものだ。何故か北大の人達が使う、銀座のクラブや、六本木のバーなどもその方々に教えて頂いた。得てして北海道出身のマスターがやっている店が多い。北大を卒業したという共通点を繋がり多くの先輩から学びを受けることができています。昨年度は北大東京ジンパなるものを東京で企画し300人がジンギスカンを行うイベントだったが多岐にわたる協力のもと成功を納めることができた。今年は500人を集客し都ぞ弥生を歌った。馴染みのジンギスカンはどうやら北大OBには響くようだ。

あずさ監査法人の時にwikipediaを調べていて北大の卒業生である森田松太郎先生が創立者であることが分かった。これは会わねばと思い、インターネットで辿って直接お会いする事ができた。NTTの民営化やJRの民営化の際には共に社長は北大のOBであったことなどを聞いた。上京しサラリーマンを追求する方々には実際に歴史を動かすような大きな仕事をする人がいる、実際に北大卒業生も大きな会社を作ったり、数千人の組織を率いて社会を良くする大きな仕事をしているのである。北大を出ている事は決して言い訳になるようなものではなく誇りになるものだ。

地元である北海道の地は東京での生活が長くなればなるほど恋しき魅力は増してくる。故郷への思いを同じくする同士のようにな北大を卒業した同士は共に切磋琢磨し励まし合い東京という場で働いている。そこには学閥という凝り固まったマイナスのイメージではなく、自由で風通しが良く、業界業種を越え、世代を越えたコミュニケーションが、北大の風土に類した自由な形で行われている。このように

大学にいる際には感じなかった北大ブランドは東京で働いていて社会人になるほど味わいが出てくる。自分の人生の重要な一部となっている。北海道大学経済学部の卒業生としての誇りを胸に働き盛りの30代を迎えたいと思う。

Connecting the dots ～人生に無駄な経験はない～



加納 孝之
(昭和63年卒業)

昭和63年3月に北海道大学を卒業して26年が過ぎ、現在48歳となりました。今年4月から、初めての単身赴任で旭川（北海道上川総合振興局）に勤務しています。特段、転職希望があったわけではないのですが、2回転職して現在に至っています。これまでの社会人生活26年を振り返ると、スティーブ・ジョブズのスタンフォード大学卒業式での有名なスピーチの一説が思い出されます。「So you have to trust that the dots will somehow connect in your future.」（将来、どんな形であれ点はつながると信じるべきだ）

私は大学卒業後、富士銀行に入学し、3つの支店で5年間勤務しました。銀行員時代に思い出されることは、バブル景気とバブル崩壊による不良債権処理です。この5年間は、社会人としての仕事の基本、立ち振る舞いを徹底的に教え込まれ、そのことが、その後、様々な場面で点として生きています。また、人生最大ともいえる失敗を経験したことも、今となっては、私の財産となっています。

平成5年4月、生まれ故郷である帯広の十勝毎日新聞社に転職しました。十勝毎日新聞社では総務局に1年3ヶ月、関連会社である北海道ホテルで総務課長として2年9ヶ月勤務しました。銀行員時代は企業を外部から見えていたが、今度は企業を運営し結果を出す立場となりました。また、人事労務管理や関連会社の設立などの新たな仕事（点）を経験することができました。

平成7年、北海道庁の不正経理の報道があり、このような不祥事を二度と起こすことがないよう道庁において改善プログラムが策定され、その中で民間企業を経験した職員を中途採用することが決まりました。北海道というフィールドで、これまでの経験を生かしたいという気持ちから、この試験を受験し、平成9年4月、民間経験職の1期生として道庁に勤務することになりました。

道庁における最初の配属先は企業局総務課財務係でした。企業局は企業会計により工業用水道と発電の事業を行っています。そういう意味では、企業勤務時代の経験が大きく生かされ、加えて、道職員となって早い時期に予算や議会

という道庁の仕事の基本を学ぶことができました。その後、事情があり帯広に異動を希望し、十勝支庁北部耕地出張所に異動となりました。この出張所は、農業の基盤整備を担当しており、私は用地買収などの業務に就きました。不動産関係の業務は銀行員時代に経験していたので、その経験が生かすことができました。その後、平成12年4月、十勝支庁地域政策部地域政策課に異動となり、5年間勤務しました。ここでは、地域の総合計画や地域振興に係る各種助成事業などを担当しました。この経験は、現在の業務につながっています。

平成17年4月、札幌に異動し、その後9年間、本庁で勤務することとなりました。このうち5年間は試験研究機関に関する仕事を行い、22の分野の異なる試験研究機関を総合的な研究機関とする業務などに就きました。この間、道庁の研修制度により小樽商科大学大学院アントレプレナーシップ専攻で学び、MBA（経営管理修士）を取得しました。分野を横断した総合的な研究機関の設立にあたり、このMBA取得は大きな論理的基盤を与えてくれました。また、大学を出て約20年目である41歳のときに、経営学を学び直してきた経験は何よりの財産となっており、大きな点の一つになると考えています。

その後、行財政改革業務を2年、地域振興関係業務を2年経験し、今年4月から上川総合振興局地域政策部長として旭川に赴任しました。現在は、上川管内の地域振興を図る立場から、市町村など地域の方々の応援団として、支援者として仕事を進めています。

これまでの経験を振り返ると、その場その場で与えられた仕事、場合によっては自分の担当以外の仕事にも興味を持ち、納得いくまで調べ、楽しみながら最高の仕事をする、そのことによって知らず知らずのうちに全ての点（経験）が将来につながっていると感じています。これからも、楽しみながら点を作り続け、そして、ここまでつないできた点を更につないでいきたいと考えています。その結果として、自分自身の人生を豊かにすること、北海道に、地域に、社会に貢献していくことができればと考えています。

大学院へ進んだきっかけ ～必要な複眼的視座～



佐々木 康太
(北海道大学大学院経済学研究科 修士1年)

大学院に進学しよう、研究の道に進もうと決意したのは大学三年生の夏休み頃だったと思う。

当時私は佐々木憲介先生のゼミに所属しており、三年生

が夏休み頃から取り掛かる課題、通称ゼミ論（ゼミ論文）に取り掛かろうとしていた。その年の佐々木ゼミのテーマは「新自由主義とはなにか」というもので、ハイエク、フリードマンといった二〇世紀の大きな思想潮流を生み出した経済学者の著作を輪読していた。そこで、そのテーマに合わせて論文を書くために文献を探していたのだが、そのときたまたま手にとったのがフランク・ナイトの『競争の倫理』という論文集だった。そして、そのたった一冊の本を理解しようとしているうちに私は、大学院へ進んで専門的に学びたいと考えるようになってしまったのである。

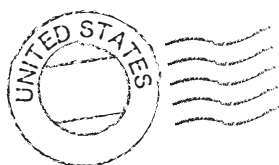
過去の経済学者の思想（無論、理論も含めて）を解釈する、ということには複眼的な視座が必要だと思う。過去の偉大な経済学者のほとんどは経済学だけを学んでいたわけではなかったし、経済学だけに関心があったわけではなかった。哲学、法学、政治思想、あるいは宗教や当時の時代背景などが複雑に入り組んだ独自の世界観を彼らは持っていた（もちろん、このことはナイトにしても同様である）。そう考えると、センテンスをそのまま理解するということは解釈の前提条件でしかない。そのような前提条件を満たした上で、ドグマを捨て去り、様々な知識でもって複眼的にセンテンスを吟味して解釈する必要があるのだ。このような技術を学ぶことはもちろん学部でもできるけれども、やはり大学院で学ぶのとは比べ物にならないと思う。大学院では、知識の量・質や論理性といった知的能力の低さを認識し、それらと対峙するよう日々迫られる。大学院という環境は、そのような技術を自覚的にも無自覚的にも学べるし、どうにもスノップになりがちで臆見に囚われがちな私には、恥を日常的にかかせてくれるという意味でも、とても良い環境だと感じている。

とは言え、そのような技術を日々学んでいるとは言っても、肝心のナイトのセンテンスの完全な解釈には未だ程遠い。訳者をして晦渋だと言わしめるそのセンテンスは、恥ずかしながら大学院生にとって当たり前とされる語学に難を抱えている私には容易く理解できるものではない。加えて日々の講義も、密度が濃くやり甲斐がある一方で、その分量についていけなくなりそうなことが多々ある。なかなか前提条件の位置にも立てないのが現状だ。それでも、「読書百遍義自ずから見る」と自らに言い聞かせ、日々恥をかきながら精進していこうと思う。



海外便り

Tatsuki-Tomita



卒業と同時に、当時まだ設立間もないソフトウェアのベンチャー企業へ就職するために、単身ヨーロッパへ渡ってから13年の月日が経ちました。

渡欧してからの約4年間、世界中の人々に最高のインターネット体験を提供するという壮大なミッション実現のために、世界中から集まってきた頭脳明晰かつ理想に燃える仲間達と、札幌と共通点の多い北欧の都オスロで過ごしました。

当時、まだ若干50名弱の小さな会社でしたが、自分達の技術で世界を変えるんだという信念をもって、現在ウェブ上で広く使われている様々な技術仕様を開発していきました。

スマートフォン全盛の今では信じられないと思いますが、当時はまだ、PCと同じように、どんな携帯端末からでもインターネットを閲覧できるようにしたいんだ！と言うと、そんなことできるはずがないと笑われたことをはっきりと覚えています。

これを可能にするために開発したソフトウェアは、わずか数年間のうちに、世界中で2億5000万人以上に使われるようになり、シベリアの凍つく大地やアフリカの砂漠でもインターネット閲覧を可能にしています。

もちろん、やりたかったことを全て実現できたわけではありません。失敗や苦い経験も数えきれないほどあります。しかし、会社経営の中核で、会社の急激な成長、株式公開、各国での事業立ち上げ、企業買収、組織再編などを経験することで、様々なことを学ぶことができました。

昨年、それまで12年間務めたノルウェーの会社を退社し、2年前に移り住んだシリコンバレーで、仲間と共に新しいベンチャーを立ち上げました。

また13年前と同じように、ゼロからのスタートですが、また毎日ワクワクする日々が戻ってきました。そして、その傍ら、長い間やりたくてできなかった、修士号の取得に取り組んでいます。40歳を前にして、人生の第二幕の幕開けです。

現在受講しているのは、UC Berkeleyにある、Executive MBA（経営学修士）というプログラムです。

このプログラムは、実務経験12～15年程度の各分野の専門



家を対象に作られており、2週間ごとに3日間、Berkeley市内（San Franciscoの対岸）に泊まり込みで、一日10時間集中的に企業経営を実践的に学ぶ構成になっています。

UC Berkeleyは、ノーベル賞受賞者も多く教鞭をとる世界有数の研究機関ですが、私が驚いたのは、プログラムの内容もさることながら、卒業生のネットワークの充実ぶりです。

各界で活躍している卒業生が多いのは、もちろんのことですが、ビジネススクール（経営大学院）自体が、卒業生同士の交流の場を積極的に提供し、大学内外で、頻繁に交流会、パネルディスカッション、パーティーなどが開催されています。また、卒業後も受講できる講義や、キャリアアップに応じて受けられるエグゼクティブコーチング、キャリアコンサルティングなども提供されています。

大学や大学院が、人生における通過点ではなく、面として卒業生をサポートできる体制にとっても力を入れていると感じました。

これに多に刺激を受けて、恥ずかしながら卒業後はじめて、同窓会に参加してみようと思い立ったのが昨年末。ところが、シリコンバレーでも他大学の同窓会活動は多くありながらも、残念なことに、北大同窓会は、いくら探しても見あたりません。

そこで、事務局に連絡を取り、シリコンバレーでの同窓会立ち上げを提案するに至りました。

まだ現時点では、当地での第一回同窓会開催には、至っておりませんが、これを読まれた方でお知り合いの卒業生がいらっしゃる方は、是非私までお知らせください。

今後、サンフランシスコベイエリアで働く卒業生が共に集まり、将来的にはシリコンバレーに挑戦したいという北大卒業生をサポートできるようなネットワークができればと思っています。

シリコンバレーには、自分達のアイデアと技術で世界を変えていくんだという熱意を持った人たちが世界中から集まってきています。また、その人たちのアイデアを実現するために、資金を提供するネットワークに加え、様々な人的ネットワークが整備されています。

北大卒業生の中から、一人でも多くの人が、世の中を変えるビジネスを起こし、日本の、そして北大のプレゼンスが向上することを願っています。

サンフランシスコ、カリフォルニアにて

富田 龍起

tatsuki@vivaldi.net

（平成13年卒業）



小林好宏先生を偲ぶ

同窓会事務局のもとに、平澤亨輔・札幌学院大学経済学部教授が追悼の原稿を寄せられましたので掲載します。

小林 好宏 先生は、2013年12月22日に永眠されました。ここでは故人の足跡を振り返り、追悼の辞を捧げたいと思います。

小林先生は、北海道大学経済学部を卒業後、北海道大学大学院経済学研究科に進まれ、その意味では純粹の北大出身者といえます。学部生時代にはマルクス経済学をはじめシュンペーターやアルフレッド・マーシャルなど特定の分野にこだわることなく、きわめて幅広く勉強しました。小林先生の学問における奥行きの高さはこの頃からつくられたといえます。大学院に進むにあたり、マクロ経済学分野で評判の高い早川泰正先生に師事し、ケインズ革命を含め、いわゆるマクロダイナミクスと呼ばれる経済変動と雇用などの問題に取り組まれました。

1962年（昭和37年）に山口大学講師となられた前後から、マクロ経済を支え動かす「産業・企業」の活動に関心を深められ、1965年（昭和40年）、助教授として北大に戻られました。その後は主として、現在では「産業組織論」と呼ばれる分野を中心に活躍されました。1967年に『現代寡占経済論』（山口大学 阿部一成氏と共著、東洋経済新報社）、1970年には最初の単著である『寡占経済の動態分析』（恒星社厚生閣）を、翌71年には『日本経済の寡占機構』（新評論社）、『管理価格』（ダイヤモンド社）、『寡占企業の行動分析』（春秋社）を単著として続々と出版しています。そしてこの分野の小林先生の研究の集大成ともいえるのが、『企業集団の分析』（北海道大学図書刊行会、1980年）です。この著書には小林先生の研究姿勢である全体と個別のバランスだけでなく、経済学研究の最終目標は社会の改善にある、という姿勢を汲み取ることができます。

小林先生は、北海道大学を退職後、札幌大学に移り、その後、北海道武蔵女子短期大学の学長をつとめられました。

このほかに小林先生は『パターンリズムと経済学』（現代図



書、2005年）など多くの啓蒙書を著しました。公共経済学、地域経済学、文化経済学など他の分野にも関心を持たれており、学問的な幅の広さを持った研究者でした。

小林先生のことを語るとき、触れずにおかないのは北海道に対する関心です。道などの各種委員として行政と関わるとともに、最近では「はまなす財団理事長」・「北海道開発協会会長」として地域の問題に積極的に関わってきました。後者では、開発協会にある「調査部」を率い、地域の再生・活性化の調査研究を組織し、研究成果を出版物にまとめています。これらの活動を通じて、学問研究だけでなく、北海道経済の活

性化、北海道の総合力を高めたい、と意欲を燃やしていたものと思います。北海道大学はもちろん、北海道のために貢献するというのが小林先生の生きがいでもあったか、と思います。

小林先生の人間的な幅広さは学問ばかりでなく、音楽にも関心があったことです。札幌東高校の学生であったときから合唱団にはいり、教職に就いてからも札幌放送合唱団で活躍され、合唱のコンサートなどに参加されていました。その歌声はセミプロの領域でありました。先生のご葬儀の最後に合唱団の同胞が小林先生のために合唱で見送られたことは大変印象的なことでした。

小林先生の人柄は、温厚で篤実であり、大学院生の面倒見も良く、多くの友人、教職員、ゼミの卒業生から慕われました。今年3月に「小林先生を偲ぶ会」が札幌で行われましたが、わざわざ東京から駆けつけるOBもいたほどです。また小林先生のもとから多くの研究者が生まれています。

このような小林先生を失ったことは、大きな悲しみであるとともに北海道にとっても大きな損失といえます。ここに改めてご冥福を祈りたいと思います。

（平澤亨輔 記）

育ててきたのは、
電力。
でん たつ りょく

須田製版は、印刷というカタチにとらわれず、
SP企画、デザイン、デジタルサイネージ、Web、AR、電子書籍 etc.
クロスマネジメントという多様な表現媒体を舞台に
ニーズにあった「想い」を伝えていきます。

www.suda.co.jp

TOTAL PRINTING
株式会社 **須田製版**

札幌本社：〒063-8603
札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8
TEL.011-621-1000
FAX.011-621-1500

旭川支社・釧路支社・苫小牧支社・
関東支社・滝川営業所・
帯広営業所・北見営業所



名刺広告

株式会社 石川物産館
恵 愛 ビ ル

代表取締役

吉中 新太郎
(経 昭和30年卒)

〒064-0804
札幌市中央区南四条西四丁目十六番地
電話代表(011)271-0011番

弁護士 公認会計士

伊東 孝
(経 昭和34年卒)

札幌市中央区大通西四丁目南大通ビル
TEL 011(271)2475
FAX 011(281)5809

からだが不自由な子供たちの図書館
公益財団法人 ふきのとう文庫

代表理事

高倉 嗣昌
(経 昭和36年卒)

業務執行理事

阿久津 良二
(経 昭和37年卒)

札幌市西区平和三二五番地
TEL 011(665)4839

ぬくもりの宿
運河の宿 おたる
海の別邸 ふる川

代表取締役

古川 善雄
(経 昭和37年卒)

札幌市南区定山溪温泉西四丁目
TEL 011(598)2345

中川原・石黒税理士事務所
税理士

中川原 慶憲
(経 昭和41年卒)

札幌市中央区南一条東一丁目一番十一号
第三泊ビル
TEL 011(271)8462

山田建一税理士事務所
税理士

山田 建一
(経 昭和41年卒)

札幌市北区北十九条西五丁目一番十九号
TEL 011(746)5646

札幌監査法人

代表社員 公認会計士

高野 一夫
(経 昭和45年卒)

札幌市中央区南一条西十二丁目新永ビル
TEL 011(261)7512

山崎公認会計士事務所
公認会計士 税理士

山崎 駿
(法 昭和45年卒)

株式会社ポインントプラス
代表取締役社長

加我 稔
(教 昭和46年卒)

札幌市北区北九条西四丁目十番地二
エスターNガレリア
電話 011(738)8167

株式会社 エーティーエル システム
顧問

内藤 治生
(経 昭和46年卒)

山梨県甲府市相生1-4-23 日本興亜ビル
電話 053(220)6436

弁護士

吉川 正也
(経 昭和46年卒)

札幌市中央区大通西四丁目南大通ビル4階
TEL 011(261)6677

上野公認会計士事務所
公認会計士

上野 昌美
(経 昭和47年卒)

札幌市中央区南23条西9-1-25
TEL 011(522)8170

毛塚 富雄
(経 昭和47年卒)

北広島市大曲工業団地五丁目一番地二
TEL 011(377)4011

遠藤公認会計士事務所
公認会計士

遠藤 昭一
(経 昭和48年卒)

札幌市東区北二条東十八丁目三番二号
TEL 011(783)8123

株式会社ジャックス
相談役

杉本 直栄
(経 昭和48年卒)

〒060-0004
札幌市中央区北4条西1丁目1番地
電話直通(011)232-6525

厚生病院と配置薬で命を守る
北海道厚生農業協同組合連合会
常任監事 公認会計士

中島 逸史
(経 昭和49年卒)

〒060-0004
札幌市中央区北4条西1丁目1番地
電話直通(011)232-6525

弁護士

工藤 倫
(経 昭和50年卒)

札幌市中央区北五条西十二丁目一番地
ベルックス北五ビル B館一階
TEL 011(261)5275

田中利男税理士事務所
税理士 中小企業診断士

田中 利男
(経 昭和50年卒)

札幌市中央区南3条西6丁目3-2
南3条グランドビル601
TEL 011(261)2061

株式会社 ターフテック
代表取締役

宮本 裕司
(経 昭和50年卒)

北広島市大曲工業団地五丁目一番地二
TEL 011(377)4011

明治ロジテック株式会社
代表取締役社長

陣谷 義直
(経 昭和51年卒)

東京都文京区本郷3丁目22-5
住友不動産ビル
TEL 03(584)6955

岩本敏美税理士事務所
(株)イワモトマネジメントサービス
税理士・代表取締役

岩本 敏美
(経 昭和53年卒)

〒007-0834
札幌市東区北34条東7丁目3番20号 イワモトビル2階
TEL 011(214)1176

不動産鑑定士 宅地建物取引主任者
目黒 健児
(経 昭和54年卒)

メクロオフィス株式会社 代表取締役
札幌市中央区南一条西八丁目十四番地
大友ビル四階南 室通(南向き)
TEL 011(218)3666

監査法人ライトハウス
代表社員 公認会計士

北村 好孝
(経 平成4年卒)

札幌市中央区南一条西11丁目コンチネンタルビル
TEL 011(232)7102

監査法人ハイビスカス
代表社員 公認会計士

堀 俊介
(経 平成6年卒)

札幌市中央区南1条西9丁目井門札幌S109ビル
TEL 011(826)5265

吉田大吾税理士事務所
税理士

吉田 大吾
(経 平成11年卒)

札幌市中央区南一条西七丁目十二番地
都市ビル7階
TEL 011(212)1412

税理士法人ヒラマツ
札幌事務所所長 社員税理士

石 靖士
(経 平成12年卒)

〒060-0001
札幌市中央区北一条西九丁目3-27
第三古久根ビル601
TEL 011(242)11414
FAX 011(242)11405

中村泰道会計事務所
所長(公認会計士・税理士)

中村 泰道
(経 平成12年卒)

札幌市北区北7条西2-20 東京建物札幌ビル2階
TEL 011(266)2624
E-mail: y-nakamura@nakamura-cpa.jp

牧田税理士事務所
税理士

牧田 秀崇
(院 経済 平成22年卒)

苫小牧市音羽1丁目8番6号
TEL 0144(34)0385
URL: http://www.iamnaka.com

同窓会費のお願い

会費収入急減、前期赤字に

いつもお振込をいただき、ありがとうございます

同窓会の諸活動や会員への連絡などは、言うまでもなくすべて皆様からの会費でまかっています。

昨年度も「終身会費」をはじめとして多くの方々に年会費をご入金いただきました。

同窓会事務局ではこれらの貴重な会費を一円も無駄にしない覚悟で、予算範囲内の活動を続けております。

法人化以降、大学は同窓会に対して様々な面で多くの期待を寄せてきています。今後は同窓会としてもこれを正面から受け止めて責任ある対応をしていかねばなりません。

また、同窓会相互の親睦や交流の場も増やしていきたいと思っています。

会員各位におかれましては事情をご理解賜り、会費納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。

なお、コンビニからの入金が可能となりました。振込に際しては用紙をご確認のうえ、宜しく願い申し上げます。

年会費 3,000円

終身会費 30,000円

振込方法

●郵便局、コンビニの場合

同封の「振込取扱票」にてお願い致します。払込料は同窓会負担。用紙にご注意。

●銀行振り込みの場合

北洋銀行本店営業部 普通 0666955

北大経済学部同窓会 会長 上野昌美

北海道銀行本店営業部 普通 0754677

同上

○住所、勤務先などの変更については、事務局までお届け下さい。特に本学部の卒業生は転勤も多くつい届け出を忘れがちで、毎年かなりの会報が「宛先不明」で返ってきます。メール、電話を宜しくお願いします。

平成26年7月期 収支報告書

自 平成25年8月1日 至 平成26年7月31日

	項 目	金 額(円)	備 考
収 入	前 期 繰 越 金	4,615,852	
	会 費 収 入	1,039,870	終身会員24名
	広 告 収 入	357,000	会報29号
	総 会 収 入	168,052	
	そ の 他	7,639	金利ほか
	計	6,188,413	
支 出	消 耗 品 費	15,080	
	会 議 費	0	
	総 会 関 連 費	180,420	
	助 成 金	170,000	卒業祝賀会、優秀論文賞
	通 信 費	322,402	会報発送代ほか
	会 報 作 成 費	492,158	会報29号
	旅 費	0	
	事 務 費	570,000	事務局実費
	印 刷 費	0	
	雑 費	10,848	
	計	1,760,908	
	次 期 繰 越 金	4,427,505	
	合 計	6,188,413	

平成26年7月31日現在 普通預金 3,681,839円
 郵便局 695,830円
 現金 49,836円
 4,427,505円

会報編集委員

上 野 昌 美
(昭和47年卒)(編集委員長)

高 倉 嗣 昌
(昭和36年卒)

斎 藤 洲 男
(昭和37年卒)

中川原 慶 憲
(昭和41年卒)

佐 藤 市 雄
(昭和42年卒)

宮 本 裕 司
(昭和50年卒)

河 合 愉 美子
(昭和61年卒)

田 中 賀 代子
(平成7年卒)

岩 本 栄 一
(昭和49年卒)(事務局)

編集後記

●「北大経済学部同窓会報」は今回で30号の区切りとなります。1982年発行のA3判4ページからなる「創刊号」を読むと、会報が生まれたのは北大経済学部創設35周年の記念事業の一環だったようです。誌面には学校関係者や諸先輩の熱のこもった格調ある寄稿をはじめ、同窓会総会・ゴルフ大会などの告知、教官の異動状況そして会費納入のお願いなど、それ以降続いてきた経済学部同窓会報の“原型”が見て取れます。今号もそれを踏襲しつつ各所に新味を出してお届けすることができました。

●今号も事務局のお願いにご快諾いただき、多くの同窓会員の方が原稿をお送り下さいました。例年に比べ今年は比較的若い層から個性豊かな原稿が集まりました。次号も自薦他薦問いません、ぜひ事務局までご一報下さい。また、同窓会は皆さんのための開かれた集まりです。様々なイベントにお気軽にお出掛け下さい。

●経済学部同窓会のホームページをご覧くださいと毎月写真が更新され、時々行事の案内なども掲載しています。佐藤市雄さん(昭和42年卒)が北大キャンパスの四季折々の風景を撮って載せてくれています。Facebook(北海道大学経済学部同窓会)と併せ、ぜひご覧ください。

(岩本 記)

平成26年度 北大経済学部同窓会・懇親会のご案内

今年も同窓会総会・懇親会はホームカミングデーの開催日に合わせて行います。

総会に先立つ恒例の講演会は、憲法改正や解釈論議の高まりを反映して、文系4学部合同企画「憲法改正問題の背景—過去と現在からのアプローチ」をテーマに行います。講演者は川口暁弘北大大学院文学研究科准教授とお馴染みの山口二郎北大名誉教授（法大教授）。賛否様々な立場はあるとしても、議論の出発点を歴史学と政治学という複数の視点から再確認する絶好の機会です。ぜひ聴講されてはいかがでしょうか。

日 時：平成26年9月27日（土）

14：00～16：30 川口暁弘氏、山口二郎氏による講演会（人文社会科学
総合教育研究棟・W103号 ※博物館の対面、文系4学部の
中間です）

16：45～17：15 経済学部同窓会（講演会場隣接の「2番教室」）

17：30～19：30 懇親会（構内の「中央食堂」2階）

会 費：3,000円（ご家族2,000円）

なお、**ご出席の有無を9月15日までに**下記あてご連絡下さい。当日受付も行います。

連絡先：北大経済学部同窓会事務局 月、木、金の午後は常駐しております。

☎・FAX 011-706-4113 メール dosokai@econ.hokudai.ac.jp



(株)ブライダルは北海道大学経済学部同窓会の 皆様の「結婚」を応援します。

36年の実績

(株)ブライダルは今まで法人福利厚生、官公庁、各大学
会報誌などで、数多くの方々の結婚のお世話をさせて
頂いております。少子化問題にも『結婚』という形で社会
に貢献できる企業を目指しており、特に北大校友の皆様
には平成18年より「北海道大コース」を設け、多くの方
にご利用頂いております。この「北大経済学部同窓会報」を
見たとおっしゃってくだされば、校友の皆様はもとより、
ご家族の方でも特別に「結婚」を特典付（登録料50%
OFF）にてお世話させていただきます。

北海道大コース

登録料 **50% OFF**

ブライダルコース ¥226,800 ▶ ¥210,600 etc.

エクセレントコース ¥388,800 ▶ ¥372,600 etc.

●価格は登録料・会員サポート費・月会費（12回分）の税込総額です。



下のQRコードにて携帯サイトに簡単にアクセスできます。（一部対応しない機種がございます。）



株式会社 ブライダル

Network 東京・横浜・湘南・浜松・豊橋・名古屋・岐阜・大阪

東京本社 〒163-0528 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル28F
名古屋本社 〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-13 コスモ栄ビル9F
大阪支社 〒530-0001 大阪市北区梅田1-12-17 梅田スクエアビルディング6F

お問い合わせ
（月曜定休）

☎ 0120-415-412

ホームページ <http://www.bridal-vip.co.jp>
携帯サイト <http://www.bridal-vip.net/m/>



QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。